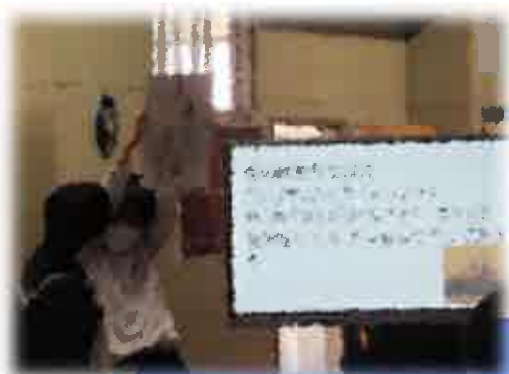


やまぶき

第19集

〈学校教育のための博物館活用の手引き〉



川 越 市 立 博 物 館

あいさつ

川越市教育委員会
教育長 新保 正俊

川越市教育委員会では、地域の魅力を広く・深く知る活動や、地域と協働して行う活動などを通して、地域に愛着や誇りをもち、貢献しようとする心を育むことで、自らの未来を切り拓く力の育成を目指す「ふるさと学習」に取り組んでおります。令和4年は本市にとって市制施行100周年の記念すべき年にあたり、川越市教育委員会においても、川越の魅力を再発見し、さらに愛着や誇りをもちつことができる機会となるよう、市制100周年に関連する行事等を実施いたしました。

川越市立博物館では、市内をはじめ県内外の小・中学校を中心とした校外学習の受入、出前授業による学校教育への支援、川越の文化財や収蔵資料を活用した教員研修などを開催し、学校との連携を深めております。また、開館以来「博学連携」の中核となる博物館利用研究委員会を組織して、小・中学校の教員と博物館職員の協働を進め、学校教育における効果的な博物館活用についての研究・実践を積み重ねております。

令和3・4年度の2年間に渡る、博物館利用研究委員会では、「川越の魅力を学び・発信できる子どもを育む単元計画の作成と授業づくり」を研究主題とし、各校のふるさと学習に活用することができる単元計画例、市内の歴史・観光・偉人等の地域教材を生かした授業づくり、さらに授業における博物館やタブレット端末の有効活用について研究・実践して参りました。

この「やまぶき第19集」には、2年間に及ぶ博物館利用研究委員会で取り組んだ様々な研究を基に「単元計画例」や授業実践をまとめた「指導カード」を作成し掲載しております。本資料が、各校における積極的な博物館活用及びふるさと学習の計画・実践のための一助となれば幸いです。

結びに、今日までの熱心な研究と本資料の作成に尽力された博物館利用研究委員会の皆様方に厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

博物館利用研究委員会
委員長 武蔵 昌行

令和3年に策定されました第三次川越市教育振興基本計画では、「生きる力を育み未来を拓く川越市の教育」を基本理念としております。基本理念の実現に向け掲げている目標の一つに、「郷土に誇りをもち、生きがいや思いやりに満ちた、誰もが活躍できる社会の実現」があります。ここにある「郷土に誇りがもてる」児童生徒を育成していくためには、「ふるさと川越」を学びのフィールドとして、9年間の連続性をもって探究的に学ぶことが求められております。

そこで、博物館利用研究委員会では、令和3・4年度の2年間に渡り、研究主題を「川越の魅力を学び・発信できる子どもを育む単元計画の作成と授業づくり」とし、総合的な学習の時間の授業の中で、川越の魅力を再認識できる地域素材の活用や、授業づくりにおける博物館の効果的な活用を研究して参りました。

「やまぶき第19集」では、川越の歴史や、川越に残る歴史的建造物・遺構・行事などの様々な素材をもとに探究し伝えていく活動を13の指導計画・指導カードにまとめました。また、そのまま活用できる実践例と、自学校の地域の特性に合わせて地域素材を教材化するための実践例を作成しました。各小・中学校におかれましては、本実践例を参考に、自校の地域性を踏まえた「ふるさと学習」の教材化にご活用いただくとともに、今後も博物館を学習素材として積極的にご活用いただければ幸いです。

終わりに、本研究を進めるにあたりご指導・ご助言をいただきました川越市教育委員会の先生方をはじめ、川越市立博物館の皆様、ご尽力をいただきました委員の皆様方に厚く御礼を申し上げ、あいさつといたします。

— 目 次 —

あいさつ	川越市教育委員会教育長	新保 正俊・	P 1
あいさつ	博物館利用研究委員会委員長	武蔵 昌行・	P 1
博物館利用研究委員会について・			P 3
研究主題について・			P 4

【小学校版】

①川越の中心地に特化した指導計画例・	P 5
実践事例①（6年生）指導カード（情報収集）・	P 10
実践事例②（5年生）指導カード（整理分析）・	P 12
実践事例③（3年生）指導カード（表現・まとめ）・	P 14
②地域素材を取り上げた指導計画例	
【偉人】指導計画例・	P 16
実践事例①（6年生）指導カード（課題設定）・	P 19
【文化財】指導計画例・	P 21
【舟運】指導計画例・	P 24

【中学校版】

③川越に特化した計画例・	P 27
実践事例①（第3学年）指導カード（課題設定）・	P 32
実践事例②（第1学年）指導カード（情報収集）・	P 34
実践事例③（第3学年）指導カード（整理分析）・	P 36
④川越と京都・奈良を比較する指導計画例・	P 38
⑤SDGsの視点を取り入れた指導計画例・	P 42

博物館利用研究委員会

目的

- 学校の教育課程に位置付けた博物館・文化財の活用の研究と実践
- 地域に根ざした博物館・文化財活用の研究

研究開発

各教科・領域の学習に活用できる博物館資料や文化財の研究・授業実践

教育普及

博物館活用の手引き
「やまぶき」の発行

博物館利用研究委員会

委員長

事務局

副委員長

小学校研究部（研究部A、研究部B）

中学校研究部

令和3・4年度の研究

川越の魅力を学び・発信できる子どもを育む単元計画の作成と授業づくり
～総合的な学習の時間における効果的な博物館の活用～

■博物館利用研究委員名

川越西小学校校長	武蔵 昌行(委員長)	霞ヶ関東中学校教頭	斎藤 信行(副委員長)
川越第一小学校教諭	岡田 桂他	仙波小学校教諭	平林 桃佳
川越第一中学校教諭	市川 玲名	南古谷小学校教諭	家入 優樹
牛子小学校教諭	小池 桂子	南古谷中学校教諭	三上 博之
高階小学校教諭	大場 友里恵	霞ヶ関西小学校教諭	山崎 真純
霞ヶ関西中学校教諭	畑原 詩央	鯨井中学校教諭	小池 さつき

■担当した職員

長谷川 和志（指導主事） 沼田 健（指導主事）

－ 研 究 主 題 －

学習指導要領のねらい

- 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」
- 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」



研究主題「川越の魅力を学び・発信できる子どもを育む単元計画の作成と授業づくり」
～総合的な学習の時間における効果的な博物館の活用～

研究の視点と手だて

小学校研究部（研究部A、研究部B）

中学校研究部

研究の視点 1

◎川越の魅力を学び・発信できる子どもを育む単元計画の研究

- 「単元計画」の検討・作成
- 地域素材の調査・検討

研究の視点 2

◎川越の魅力を学び・発信できる子どもを育む博物館活用の研究

- 博物館職員や収蔵資料等の活用実践
- 授業に活用する資料の検討・作成

研究の視点 3

◎授業実践による考察

- 「指導カード」の検討・作成
- 訪問授業の実践
- 授業後の考察

〇〇小学校「総合的な学習の時間」指導計画(例)

1 単元名 「わたしたちの住む町、川越～川越の魅力を伝えよう～」(15時間～)

2 単元で目指す児童像

川越の町の魅力について探究することを通して、自分たちの住む川越の魅力を深く知るとともに、愛着を高め、より多くの人たちに川越の魅力を発信していこうとする児童を口指す。

3 単元の目標例 ※各学校における教育目標も踏まえて各校で設定する。

川越の人、もの、ことについて調べる活動を通して、その魅力に気づき、学んだことを多くの人に伝える方法を考え実践しようとする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①川越の人、もの、ことについて調べることを通して、川越の魅力に気づいている。 ②課題解決に向けて、情報収集し、必要な情報を取捨選択して整理分析をしている。 ③川越の魅力を伝えるために、自分にできることを実践しようとしている。	①川越の魅力について、課題を設定し、解決に向けて計画を立てている。 ②課題解決に向けて、得た情報を比較・分類したり、関連付けたりして考えている。 ③川越の魅力についてわかったことや考えたことを、相手や目的に応じてまとめ方を工夫して表現している。	①友達や地域の人と積極的に関わりながら、川越の魅力について調べたり、伝えたりしようとしている。 ②課題解決の状況を振り返りながら、諦めずに最後まで取り組もうとしている。

5 単元の指導計画・評価計画

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程 時間	○学習活動 ●児童の思考	・指導上の留意点 ☆評価【観点】(評価方法) ◇各教科との関連
課題 (1)	オリエンテーション ○これまで学習した川越の特色や様子を振り返るとともに、今後の学習について見通しとゴールのイメージを持つ。 ・川越の観光地ってどんなところがあるのだろう。 ※関係機関と連携する場合は、児童が課題を設定し、調べる動機づけとなるような内容での講話が考えられる。 (事前にどんな内容の講話が必要か担当者と十分に打合せをする。) (例)・川越の観光地や特産物についての紹介 ※この段階であまり詳しい説明をしてしまうと、子どもが主体的に調べる内容が少なくなってしまう。	・単元が始まる前に、教室や廊下に川越に関するパンフレットやガイドブック、図書資料などをそれとなくおいておき、自由に手に取ってみたいことができるようにしておくといよい。 ・オリエンテーションでは、今後の学習について見通しとゴールのイメージを持たせる。 「誰に」(相手意識)、「なんのために」(目的意識) ・次時の課題設定へのつながりを考えた内容でオリエンテーションを進める。 ・関係機関と連携することも考えられる。 ※事前連絡は、1か月前までには連絡する。 川越市立博物館 222-5399 観 光 課 224-5940 文化財保護課 224-6097

課題 (1)	詳しく調べたい課題を決めよう ○川越の魅力をイメージマップにまとめる。 ○詳しく調べてみたい課題を決める。	・オリエンテーションで知ったことやこれまで行ったことがある場所、他の人に伝えたいところなどを想起させる。 ・多様な視点で、川越のよいところを発見できるようにする。 ☆【思・判・表】①・【態】②（発言・ワークシート）
	※探究できる(疑問が湧き出てくる)豊富な素材(例) ○蔵造りの町並み ・なぜ、川越には蔵造りのお店がたくさんあるのだろう？ ・いつごろ建てられたのかな？ ・どんな材料が使われているのかな？ ・なぜ、川越の蔵造りは黒いのかな？ ・蔵造りってどんな建物をいうのかな？ ・どのように蔵造りの建物はつくられているのだろう？ ○近代建築（西洋的な建築、看板建築） ・いつごろ建てられた建物なのだろう？ ・どんな特徴があるのかな？ ・どんな材料が使われているのだろう？ ・看板建築って何だろう？ ・蔵造りの建物とはどんな違いがあるのかな？ ○時の鐘 ・いつごろ建てられたのだろう？ ・誰が立てたのだろう？ ・何のために作られたのかな？ ・高さはどのくらいなのだろう？ ・今でも鐘はなるのかな？ ○川越城本丸御殿 ・川越城は、いつつくられたのだろう？ ・誰がつくったのかな？ ・天守閣はあったのかな？ ・どんなお殿様が住んでいたのだろう？ ・今もお城の跡は残っているのかな？ ・本丸御殿って何のための建物なのだろう？ ○喜多院・仙波東照宮 ・なぜ、江戸城の建物があるのだろう？ ・なぜ、どろぼう橋っていうのかな？ ・五百羅漢はなぜつくられたのだろう？ ・川越に東照宮があるのはなぜだろう？ ・天海大僧正ってどんな人物だろう？ ○新河岸川舟運 ・舟運ってなんだろう？ ・どんな船を使っていたのだろう？ ・いつから始まったのだろう？ ・どんなものが運ばれていたのだろう？ ・なぜ、新河岸川を使ったのだろう？ ○菓子屋横丁 ・いつからお菓子作りが始まったのだろう？ ・なぜ、お菓子屋さんが集まっているのだろう？ ・飴職人さんは、どのように飴をつくっているのだろう？ ○氷川神社 ・どんな神様が祀られているのだろう？ ・なぜ、風鈴や風車が飾られるのだろう？ ・大鳥居は、どのくらいの高さがあるのだろう？ ○川越祭り ・いつから始まったのだろう？ ・どんな山市があるのかな？ ・山市にはどんな人形がのっているのだろう？ ・ひっかわせって何だろう？ ○河越氏と河越館 ・河越氏ってどんな武士だったのだろう？ ・河越館ってどこにあるのだろう？ ○さつまいも ・なぜ、さつまいもが特産物なのかな？ ・川越で人気のさつまいもを使った食べ物はどんなものがあるのだろう？ ○うなぎ ・なぜ、うなぎ屋さんが多いのかな？ ※上記の素材は、互いに関わり合い、つながっているものもある。 (例)舟運と喜多院のたてもの、さつまいもなど	

情報 (5)	グループで情報収集の計画を立てよう ○課題別のグループごとに話し合い、情報収集の計画を立てる。 ・どんなことを調べるか ・だれが、何を調べるか ・どんな方法で調べるか など 課題解決に向けて、情報を集めよう ○計画をもとに情報収集をする。 ※調べる中で湧き出てきた新たな疑問についても、さらに詳しく調べる。(探究活動) ※関係機関と連携する場合は、児童の課題解決に向けた情報収集につながる活動が考えられる。 (事前にどんな形で活動するか担当者と十分に打合せをする。)	・情報収集の方法について、児童に例示する。 ＜情報収集の方法例＞ ・インターネット ・図書資料、パンフレット、ガイドブック ・インタビュー ・現地調査 ・手紙やFAX ◇国語 ☆【思・判・表】①(発言・行動・ワークシート) ・現地調査を実施する際は、行ける場所、時間、用意するものや安全に行くために気をつけることなどを確認し、計画を立てさせる。また、校内の状況を確認し、安全が確保できるだけの引率数の調整を行うようにする。 ☆【知・技】②(発言・ワークシート) ☆【態】①(行動・ワークシート) ・ICTの活用例 ジャムボードの活用 集めた情報を「分かったこと」「さらに調べたいこと」を付箋に人力して貼りためていく。(それぞれ付箋の色を指定しておく、見分けやすい。) また、まとめなどで使えるような写真や図なども貼り付けておくことも考えられる。 ・関係機関と連携することも考えられる。 ※事前連絡は、1か月前までには連絡する。 川越市立博物館 222-5399 観 光 課 224-5940 文化財保護課 224-6097
整理 (1)	わかったことや新たな疑問を整理しよう ○集めた情報を整理・分析する。 ＜活動例＞ ①集めた情報を「分かったこと」「さらに調べたいこと」に分類する。(個) ・さらに調べたいことや湧いてきた疑問を明確にしておくことで、次時以降の活動に生かせるよう、整理する。 ②同じ課題グループで分かったことを伝え合い、情報共有する。(伝え合い) ③次時の活動に向けて、グループで共有したことをもとに分かったことをまとめる。(個) ・わかったことは、伝える相手にとって分かりやすい表現でまとめる。(相手意識)	・思考ツール等を活用したり情報を可視化したりさせる。 ・ICTの活用例 ジャムボードの活用 集めた情報をグループのジャムボードに「分かったこと」「さらに調べたいこと」を付箋で分類する。(それぞれ付箋の色を指定しておく、見分けやすい。) ・次時の活動で、本時で共有した情報をもとに別のグループの児童と伝え合いを確認しておく。 ☆【知・技】③(発言・ワークシート) ☆【思・判・表】②(発言・ワークシート)

表現 (1)	調べて分かったことをグループで伝え合おう ○調べて分かったことを別の課題グループの児童と伝え合う。 ・前時に同じ課題グループで共有した情報をもとに分かったことを伝え合う。	・事前に課題別の児童でグループを構成しておく。 ☆【知・技】①（発言・ワークシート） ☆【態】③（発言・行動・ノート）
課題 情報 (2)	川越の魅力についてさらに詳しく調べよう ○これまで調べてきて、新たに生まれた疑問やさらに詳しく調べたい事について追調査する。	☆【知・技】②（発言・ワークシート） ☆【態】②（発言・行動）
整理 (1)	わかったことを整理しよう ○集めた情報を整理する。 <活動例> ①同じ課題グループで分かったことを伝え合い、情報共有する。（伝え合い） ②共有したことをもとにグループで分かったことをまとめる。	・思考ツール等を活用したり情報を可視化したりさせる。 ・ICTの活用例 ジャムボードの活用 集めた情報をグループのジャムボードに「分かったこと」を付箋で整理する。 ☆【知・技】③（発言・ワークシート） ☆【思・判・表】②（発言・ワークシート）
課題	【小学6年生の修学旅行との関連例】 川越と日光の魅力を比較しよう ○日光の観光地について考える。 （題材例） ・日光の歴史的建造物 ・日光の自然 ・日光の特産物	・多様な視点で、川越のよいところを発見できるようにする。 ◇社会
情報	グループで情報収集の計画を立てよう ○課題別のグループごとに話し合い、情報収集の計画を立てる。 ・どんなことを調べるか ・だれが、何を調べるか ・どんな方法で調べるか など 課題解決に向けて、情報を集めよう ○計画をもとに情報収集をする。 ※調べる中で湧き出てきた新たな疑問についても、さらに詳しく調べる。（探究活動） ※関係機関と連携する場合は、児童の課題解決に向けた情報収集につながる活動が考えられる。 （事前にどんな内容の講話が必要か担当者と十分に打合せをする。） （例）・日光と川越のつながり ・日光東照宮の見どころ	

整理	○集めた情報を整理・分析し、川越の魅力と比較する。	・思考ツール等を活用したり情報を可視化したりさせる。 ・ICTの活用例 ジャムボードの活用 集めた情報をグループのジャムボードに「分かったこと」を付箋で整理する。
表現	○整理したものをまとめる。	・日光の修学旅行に活用できる作成物をつくることも考えられる。(観光ガイドなど) ・川越の魅力を再確認できるようにする。
課題 (1)	『川越の魅力を多くの人に伝えよう』 ○学習を通して知った川越の魅力を、多くの人に知ってもらうためにはどうしたらよいか考える。 (例) ・スライド資料を作成し、紹介する。 ・観光マップを作成し、配布する。 など	・実現可能かどうか、話し合いながら考えることができるようにする。 ☆【思・判・表】③(発言・ワークシート)
表現 (3)	○コンピュータを活用し、決めた伝え方に適した形でまとめ、発表や実践をする。 ・わかったことは、伝える相手にとって分かりやすい表現でまとめる。(相手意識)	・伝え方によってはコンピュータを活用させる。 ・相手に伝わる内容を意識してまとめるように促す。 ☆【思・判・表】③(発言・作成物) ☆【態】③(発言・行動) ◇国語

6 申し送り事項

○ゲストティーチャー・保護者・ボランティアの連絡先など ○○さん 080-1234-5678 (◇頃電話する)	○その他(配慮事項) ・事前の下見 ・服装 ・持ち物 等
---	---

※参考資料

1. 埼玉県小学校教育課程指導・評価資料 p 285～p 305
2. 各学校の年間指導計画「総合」 (desknet's Neo の文書管理。)
文書管理→教育委員会部局→学校教育部→教育指導課→(学校提出用) 年間指導計画

小学校第6学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「発信 ～川越の魅力～」

2 指導計画（35時間扱い）

- （1）課題設定：オリエンテーション、研究テーマを決めよう。・・・・・・・・・・4時間
 （2）情報収集：発信する相手と発信方法を考えよう、川越の魅力を集めよう。8時間（本時）
 （3）整理分析：集めた情報をまとめ、プレゼンテーションの準備をしよう。・・・・5時間
 （4）表 現：中間発表をして、さらに追及するべきことを考えよう。・・・・3時間
 （5）課題情報：川越の魅力についてさらに詳しく調べよう。・・・・・・4時間
 （6）整理分析：川越の魅力について分かったことを整理し、まとめよう。・・・・5時間
 （7）表 現：川越の魅力を発信しよう。・・・・・・・・・・4時間
 （8）ま と め：川越の魅力を継承する上で、取り組みたいことを考えよう。・・・・2時間

3 実際の指導（7・8／35時間）

（1）目標

- 〈関〉フィールドワークを通して、川越市の魅力についての興味・関心を高めている。
 〈知・技〉調べたいことについて、実物を見たり専門家から話を聞いたりして知識を深めている。

（2）本時の博物館との関わり

博物館の活用の仕方	ねらい	活用できる資料
○博物館見学を通して、児童が調べたい川越の魅力についての情報収集を行う。 ・川越城跡のフィールドワーク ・一番街商店街のフィールドワーク ・時の鐘の現地解説 など ○博物館の職員を派遣してもらい、現地で解説してもらう。 ○博物館の人脈を活かし、調べたい川越の魅力について、詳しい人材を紹介してもらう。	○調べたいことについて、実物を見たり、専門家から話を聞いたりすることで、知識を深める。 ○川越の情報を知ることにより、より川越の魅力に気づき、学んだことを多くの人に伝えようとする意欲を高める。	○川越城下町模型 ○山市模型 ○蔵造りの町並み展示 ○舟運の展示 ○川越藩主歴代表 ○江戸図屏風 ○木造天海僧正座像 ○川越祭りの展示 など

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価【観点】 ◎資料活用のポイント	資料名	時間 (分)
1 本時のめあてを確認する。	川越市の魅力の一つだと思えるものについて、詳しい人から話を聞いたり、現地に行ったりして調査しよう。		5
2 フィールドワークの際の注	○移動の際の安全について、十分気を付けるよう話す。		5

意点について確認する。 3 グループごとに各調査場所へ移動する。	○各班に付き添う保護者の方々と、本時の目的や注意点について事前に確認しておく。 ○学年で分担して調査場所ごとに分かれる。 ※事前に博物館と連携を図り、児童が調査したい内容に詳しい地域人材を紹介してもらい、調査場所を決定しておく。 (調査場所の例) a. 博物館 b. 大沢家住宅 c. 川越城本丸御殿 d. 喜多院 e. 氷川神社 f. 川越まつり会館 g. 菓子屋横丁 h. 一番街商店街内の飲食店 i. 蔵造りの町並み(一番街商店街) j. 時の鐘 k. 仙波東照宮 ○調査場所で待機している博物館職員や地域人材と児童をつなぐ。		1 5
4 調査活動を行う。 ・博物館職員による現地解説(a・c・i) ・地域人材による解説(b・d・e・k) ・お店の人へのインタビュー(g・h) ・博物館で解説を受けた後、自分たちで現地見学(j) ・施設の方による解説(f)	○各担当場所で、調査の助言を行う。 ◎前時までの下調べで、児童が疑問に思っていることや、特に興味を持っていることなどを調査場所ごとにまとめ、博物館職員や各地域人材へ事前に伝えておく。 ☆調べたいことについて、実物を見たり専門家から話を聞いたりして、知識を深めている。 【知・技】	・博物館内の展示資料 (川越城下町模型、山車模型、蔵造りの町並み展示、舟運の展示、川越藩主歴代表、江戸図屏風、木造天海僧正座像 等)	4 0
5 学校へ戻る。 6 振り返りを行う。	○安全に気を付けながら、付き添う。 ○調査の中で、特に魅力を感じた内容について振り返りワークシートに記入させる。 ☆川越市の魅力についての興味・関心を高めている。【関】	・振り返りワークシート	1 5 1 0

4 成果

- 博物館と連携し、地域のことに詳しい人材を紹介してもらうことで、児童の調査活動の幅を広げることができた。
- 子どもたちが調査したい事柄に沿ったフィールドワークの場を設定することが、活動への意欲の向上につながった。
- 博物館で解説を聞き実物を調査しに行くことで、実感を伴った理解をすることができた。

小学校第5学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「大好き川越～川越を伝えたい～」

2 指導計画（17時間扱い）

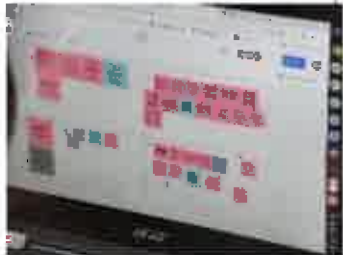
- (1) 課題設定：オリエンテーション、詳しく調べたい課題を決めよう・・・・・・・・・・2時間
- (2) 情報収集：グループで情報収集の計画を立てよう、課題解決に向けて情報を集めよう
5時間
- (3) 整理分析：分かったことや新たな疑問を整理しよう・・・・・・・・・・1時間（本時）
- (4) 表 現：調べて分かったことをグループで伝え合おう・・・・・・・・・・1時間
- (5) 課題情報：川越の魅力についてさらに詳しく調べよう・・・・・・・・・・2時間
- (6) 整理分析：分かったことを整理しよう・・・・・・・・・・1時間
- (7) 課 題：川越の魅力を多くの人に伝えよう・・・・・・・・・・1時間
- (8) 表 現：コンピュータを活用してまとめ、発表や実践をしよう・・・・・・・・・・4時間

3 実際の指導（8／17時間）

(1) 目標

〈知識・技能〉課題解決に向けて、情報収集し、必要な情報を取捨選択して整理分析している。

(2) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価【観点】	資 料 名	時間 (分)
1 本時のめあてを確認する。			1
これまでに集めた情報を、「分かったこと」や「さらにくわしく調べたいこと」に分類しよう			
2 めあて達成に向けた見通しを確認する。	○ジャムボードを使って情報を分類・整理することを確認する。 ○本時の後半では、グループで情報共有することを確認する。		3
3 集めた情報を、「分かったこと」「さらにくわしく調べたいこと」に分類・整理する。	○情報共有時の共通理解を図りやすくするため、付箋の色を指定する。 	・ジャムボードの活用	20
分かったこと→水色の付箋 さらにくわしく調べたいこと→ピンク色の付箋			

	○自分の課題解決の状況を可視化することで、次時以降の活動に生かすことができるようにする。 ☆課題解決に向けて、情報収集し、必要な情報を取捨選択して整理分析している。【知識・技能】		
4 グループで、分類・整理した結果を共有する。	○分類・整理した結果を共有する中で、疑問が解決したり、新たに疑問が生まれたりした場合は、適宜付箋を編集するよう伝える。 	・発表の話型	10
5 グループで共有したことをもとに、次時の活動に向けて発表の練習を行う。	○発表の話型を配布し、発表の練習をさせる。 発表する側と聞き手側に分かれて練習をさせる。		5
6 本時の振り返りを行う。	○本時の学習について、感じたことや分かったことなどを振り返りシートに記入する。	・振り返りシート	5
7 次時の予告を行う。	○次時の学習への意欲を高めさせる。		1

4 成果

- 児童が自ら課題を選び調査することで、自分たちが住む川越について深く学ぶことができた。また、「川越についてもっと知りたい!」という気持ちをもたせることができた。
- ジャムボードを学習に取り入れたことで、児童一人一人の授業への参加を促すことができた。また、分類する活動を取り入れたことで、学習の状況を可視化し、次時以降の課題を明確にすることができた。

小学校第3学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「大好きわたしたちの川越」

2 指導計画（40時間扱い）

- (1) 課題設定：オリエンテーション・タブレットの使い方を学習する。・・・5時間
- (2) 情報収集：川越の特徴を調べる。・・・8時間
- (3) 整理・分析：調べたことについて、気になる部分を整理する。・・・2時間
- (4) 表現・まとめ：分かったことを振り返る。・・・2時間
- (5) 課題情報：川越の魅力についてさらに詳しく調べよう。・・・1時間
※博物館山前授業を依頼することも考えられる。
- (6) 情報収集：川越の興味あることについて調べる。・・・8時間
- (7) 整理・分析：分かったことを整理しよう。・・・8時間
- (8) まとめ・表現：川越の魅力をクイズにして発表しよう。・・・6時間（本時）
※動画を撮ってたくさんの人に発信することでふるさと学習を広めることができる。

3 実際の指導（36/40時間）

(1) 目標

〔知・技〕博物館の職員からの助言やグループの友だちからの助言をもとに、より分かりやすいクイズや説明文を考え作成している。

(2) 本時の博物館との関わり

博物館の活用の仕方	ねらい
○博物館の職員を招き、クイズや解説の内容について確認、助言をしてもらう。	○博物館職員との関わりを通して自分が作成したクイズや解説文の内容が正しいか確かめるとともに助言をもとにより分かりやすいものにする。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価【観点】 □博物館職員との関わり	資料名	時間 (分)
1 本時のめあてを確認する。			2
つくったクイズやかいせつを分かりやすいものにレベルアップしよう。			
2 めあて達成に向けた見通しを確認する。	○グループごとに順番に博物館の職員の方のところに行くことを確認する。 ○クイズの答え、解説文を博物館の職員の方に見てもらうことを確認する。		2

3 〈クイズの確認に行くグループ〉 博物館の方にクイズ・解説文の確認に行く。  〈その他のグループ〉 グループで、クイズを整理し、解説は分かりやすいか確認し合う。 	○クイズの発表は動画で撮影することを伝える。 ○グループごとに博物館の職員の方に聞きに行く順番を伝える。 □作ったクイズ・解説文を博物館の方に確認・助言してもらう。 □調べても分からなかったこと・資料などについて博物館の方に質問し、より詳しい情報を得る。  ○クイズの解説をグループで聞き合い、分かりやすいものになっているか確認し合うことを伝える。 ○解説にあると分かりやすい写真や図などの資料を検索してもよいことを伝える。 ☆作ったクイズ・解説を分かりやすいものにレベルアップさせている。 【知識・技能】 	ワークシート クロムブック	3 5 5 1
4 本時の振り返りをする。	○本時の学習について、感じたことや分かったことなどを振り返りシートに記入させる。	振り返りシート	5
5 次時の予告を行う。	○次時の学習への意欲を高めさせる。		1

4 成果

- 川越について調べることで、自分たちのまち川越に対する関心を深めることにつながった。
- 博物館の職員の方に質問したり、教えてもらったりすることで、子どもたちだけでは分からなかったことも知る事ができた。
- 自分たちで調べたことについて、博物館の職員の方に確認してもらうことで、自信をもってクイズ作りに取り組むことができた。

地域素材として「人物」を取り上げた事例

小学校第6学年 総合的な学習の時間 指導計画（例）

1 単元名 「未来へ向かってGO！～郷土の偉人に学ぼう～」(25時間)

2 取り上げる地域素材

【人物名】発智 庄平

【主な業績】○霞ヶ関村村長 ○霞ヶ関カンツリー倶楽部の創設 ○埼玉育児院の経営
○黒須銀行の開設 ○博覧会に煎茶「発智園」を出品

【関係資料】○実家（笠幡） ○弁財天（笠幡） ○霞ヶ関カンツリー倶楽部クラブハウス

3 主な活動

- (1) 「発智庄平」氏が地域のために取り組んできた活動を調べ、単元を通じた課題を設定し、学習計画を立てる。
- (2) 学習計画をもとに、文献資料やフィールドワーク、聞き取り調査等を通して調べる。
- (3) 調べてわかったことを整理し、「発智庄平」氏が様々な活動に取り組んできた理由や思い、努力について考える。
- (4) 調べてわかったことを資料にまとめ、発表し、「発智庄平」氏の生き方について考える。

4 単元計画

(1) 日 標

地域の発展に大きく貢献した偉人「発智庄平」氏の活動や生き方について、文献資料で調べたり、フィールドワークにより現在も残る発智氏にまつわる事象を調べたり、関係者に取材したりする活動を通して、地域の発展に尽くしてきた先人たちの思いや努力に気づき、今まで大切にされてきた地域の文化や伝統のよさを受け継いで、地域の一員としての誇りを持ち、よりよい生き方をしようとする。

(2) 指導計画 ※ () 数字は時数

過 程 時 間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	博 物 館 の 活 用
課 題 設 定 (2)	○「発智庄平」氏の経歴から、「発智庄平」氏の取り組みについて知る。(1) ・年表を見て、どんなことを実現させた人か読み取り、発表する。 ・取り組みについて知り、関心のあること、よくわからないことについて挙げる。	・「発智庄平」氏について、興味を持てるよう、情報を提示する。 ・社会科に苦手意識がある児童に対しても、意欲的に取り組めるような教材にする。 ・自分が感じたままに、考えをたくさ	・学芸員の方による、「発智庄平」氏についての講話（ゲストティーチャー）

	○単元を通した課題を設定する。(1) 「発智庄平」氏は、人々にどんな影響を与えたのだろう。 ・前回、年表から出てきた事柄をグループ分けする。 ○課題別グループをつくる。 商売 黒須銀行の開設 霞ヶ関カンツリー創設 博覧会に煎茶「発智園」を出品 教育 笠幡学校委託教師就任 黒須高等小学校校長 福祉 埼玉育児院の経営 政治 笠幡村戸長就任 霞ヶ関村村長就任 ○それぞれのグループで「発智庄平」氏について調べる計画を立てる。	ん出させる。 ・単元のゴールがわかるように見通しを持たせる。 ・情報収集の時間が、10時間ある見通しを持たせ、計画を立てやすいようにワークシートを作成する。	
情報収集 (10)	○「発智庄平」氏が生涯をかけて取り組んできた事象について調べる。(10) 商売 黒須銀行の開設 霞ヶ関カンツリー創設 博覧会に煎茶「発智園」 教育 笠幡学校委託教師就任 黒須高等小学校校長 福祉 埼玉育児院の経営 政治 笠幡村戸長就任 霞ヶ関村村長就任	・テーマによって調査の仕方や、調査の時間数は変わすることを念頭に置き、それぞれのグループが活動しやすいように支援する。	・「発智庄平」氏に関連がある資料を借り、調べる ・学芸員の方に「発智庄平」氏について質問をし、まとめる。(ゲストティーチャー)
整理分析 (6)	○調べたことをまとめる。(4) ・「発智庄平」氏が取り組んできた理由や思い、努力について考える。 (例) chromebookのスライド等 ページサート ポスターセッション 紙芝居 ○調べたことをグループ内で発表し、情報を共有する。(1) ○他のグループの発表を聞いて、自分たちと違うところ、共通しているところを考	・「さらに調べたいこと」を具体的に考え、この先の見通しが持てるようにする。	

	える。(1) ・テーマグループ内で調べたこと・考えたことを情報交換し、考えたことを深める。 ・まとめに向けて、発表計画を立てる。		
まとめ 表現 (7)	○テーマごとに発表する。(6) ・「発智庄平」氏の生き方について考え、自分と地域との関わりを振り返る。 ○この単元のまとめを行う。(1)	・国語科の関連する授業内容も踏まえて「聞き手に考えや思いが伝わる発表の仕方」を工夫させる。	・ゲストティーチャーによる講話 ・単元を終えての振り返りを発表する。

5 実践するにあたって

○歴史的な背景も絡んでくるので、歴史をある程度学んだ6年生の後半が授業実践しやすい。

○教員だけでは「発智庄平」氏について話が中々できないので、博物館との連携を取り、学芸員の方に講話をして頂くと授業の流れがスムーズにいく。

地域素材として「人物」を取り上げた事例

小学校第6学年 総合的な学習 指導カード

1 単元名 「未来へ向かってGO!～郷土の偉人に学ぼう～」(25時間)

2 指導計画 別紙参照

3 実際の指導(1/25時間)

(1) 目標

〈関〉「発智庄平」氏について関心を持ち、どんな人物か考え、「発智庄平」氏のイメージを持つことができる。

(2) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価【観点】	□館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資料名	時間 (分)
1 自分たちが住んでいる地域について話す。	○「みんなにとっての故郷はどこか？」という疑問を投げかけ、笠幡地区への親交や愛着を深めさせる。卒業して中学校へ入学しても、その先の人生でも、笠幡がなくなることは無いことを理解し「自分にとっての故郷」だということを理解させる。			2
2 笠幡地区にいた偉人について知る。	○発智庄平の業績が、多くの人に希望を与えたことを伝える。 □博物館職員による発智庄平の話		・発智庄平の人物画(紹介)	4
3 本時の課題を確認する。	○学習の見通しを持てるようにする。 発智庄平は、どんな人物なのだろう。		・ワークシート	
4 発智庄平の写真や関連画像を見て、どのような取り組みをした人なのかを予想する。	○発智庄平の写真や関連動画を見て、何をした人なのか、どのような取り組みをした人なのかを予想させる。 ○全体共有をしながら、少しずつ発智庄平について興味・関心を引き出していく。 ○グループでジャムボードに打ち込んでいく。 ○付箋で、予想をたくさん書かせる。		・発智庄平の写真等 ・クロムブック ・ジャムボード	15
5 発智庄平の経歴から、取り組みについて知る。	□博物館職員による発智庄平の話 ○話を聞きながらメモを取らせる。 ◎発智庄平の偉業に目を向けさせる。		・パワーポイント資料 ・ワークシート	10

6 発智庄平について考える。	○ウェビングマップを書きながら、発智庄平について一番興味を持ったことがらを真ん中に書かせる。 ○疑問点やわかったこと、初めて知ったことなどを、広げていかせる。 ☆「発智庄平」氏について関心を持ち、どんな人物か考え、「発智庄平」氏のイメージを持つことができる。【関】	・ワークシート ・ワークシート	10 4
7 学習のまとめをする。	○本時で感じた「発智庄平は○○な人」と自分の言葉でまとめさせる。 ○何人か指名し、発表させる。		

4 成果

- 地域教材をやるにあたって教員が知らないことも多かったため、授業づくりの面で難しい場面があったが、子供たちの興味関心を引き出せるような導入ができてよかった。博物館の学芸員の方にも講話を頂けたことはとても良かった。
- 情報収集の時間に、資料を集めることが中々難しいと感じたが、笠幡の地域について、子供たちが調べる機会を取れたことが良かった。

地域素材として「文化財」を取り上げた事例

小学校第6学年 総合的な学習の時間 指導計画（例）

1 単元名 「知ってる？ 南古谷に残る文化財」 （25時間）

2 取り上げる地域素材（地域ごとに分類）

- 【並 木】○氷川神社（建造物） ○虫送り（行事） ○フセギ（行事）
○お獅子様（行事） ○並木大楠（記念物）
【久下戸】○氷川神社・神輿・天狗面（建造物） ○千波稲荷（建造物）
○杉の本稲荷（建造物） ○奥貫友山（人物）
【木野口】○観音堂（建造物） ○薬師堂（建造物） ○旧占祥院墓地（建造物）
○寅祭り（行事）
【占市場】○氷川神社・神輿（建造物） ○南占谷神社（建造物） ○アタケ稲荷（建造物）
○氷川神社の祭り（行事）
【淡 井】○氷川神社・天王様のモトヤシキ（建造物） ○観音堂（建造物）
○稲荷神社（建造物） ○稲荷神社の祭り（行事） ○お釈迦様（行事）
【今 泉】○神明神社（建造物） ○弁天（建造物） ○オトキ（行事）
【萱 沼】○稲荷神社（建造物） ○神明神社（建造物）

3 主な活動

- （1）南古谷地区に残る文化財や伝統行事、天然記念物の概要を調べ、単元を通した課題を設定し、学習計画を立てる。
（2）学習計画をもとに、文献資料やフィールドワーク、聞き取り調査等を通して調べる。
（3）調べてわかったことを整理し、文化財や伝統行事、天然記念物が地域に残されてきた意味について考える。
（4）調べてわかったことを資料にまとめ、発表し、これからの地域との関わりについて考える。

4 単元計画

（1）目 標

地域に残る文化財や伝統行事の存在について、文献資料で調べたり、フィールドワークにより実際に確かめたり、関係者に取材したりする活動を通して、自分たちが暮らす地域のよさに気づき、これまで大切に守り続けられてきた地域の文化や伝統のよさを受け継いで、地域の一員としての誇りをもち、よりよい生き方をしようとする。

（2）指導計画 ※（ ）数字は時数

過 程 時 間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	博 物 館 の 活 用
課 題 設 定 (3)	○南古谷地区に残る文化財や伝統行事、天然記念物について情報を交換し合う。(1) ・南古谷の地域について話を聞く。 ・自分たちの知っている地域のお祭りや神社などの情報を付箋に書き、貼り出す。	・成り立ちを聞き、自分たちの地域にたくさんの文化財等があることに気づくことができるようにする。 ・南古谷という地域が、それぞれの地域の集合体であることに気づけるようにする。	・博物館職員による「南古谷の地域の成り立ち」についての講話（ゲストティーチャー）

	○文化財や伝統行事、天然記念物が今も残っている理由について考える。(1) ・修学旅行先の日光や川越の中心街の文化財等と南古谷の文化財を比較する。 ○単元を通した課題を設定し、学習計画を立てる。(1)	・社会の学習を振り返り、先人が残そうとしてきたことに気づくことができるようにする。 ・先人が受け継いできた文化財等や伝統行事を引き継ぐ担い手が必要ということを気づくことができるようにする。	・博物館職員による「南古谷の地域の伝統行事」等の現状についての講話(ゲストティーチャー)
	学習問題 南古谷の文化財は、なぜ何十年も受け継がれてきたのだろう		
	・グループを編成し、調べ追求していきたいテーマを決め、学習計画を立てる。 (追求の視点例) ・文化財の起源 ・文化財の特徴 ・文化財が作られた目的 ・受け継いできた人 ・どのように受け継がれているか	・南古谷地域では、住んでいる地域で分類する。追求の視点で分類したり建造物や行事などで分類したりすることも想定できる。	
情報収集 (10)	○調べ追求していきたいテーマについて調べる。(10) A 並木 B 久下戸 C 木野目 D 古市場 E 渋井 F 今泉 G 菅沼 ・文献資料による調査 ・フィールドワークによる調査 ・地域に古くから住んでいる人等への聞き取りによる調査 ・これまでの体験を振り返る	・住んでいる地域でグループ分けする。 ・地域の人話を聞きながら、フィールドワークできるようにする。 ・地域の実態から、地域ごとにグループを作り、地域ごとの解散とする。 ・ここでは、本当に文化財が残っているかどうかを確かめるために取材メモを書く。	・地域の人材バンク ・博物館の図書資料等 ・保存会 ・神社の神主
整理分析 (5)	○テーマグループ内で調べたこと・考えたことを情報交換し、考えたことを深める。(1) ○調べた文化財等について「わかったこと」「さらに調べたいこと」「疑問点」に分類する。(1)	・文化財や伝統行事の魅力や歴史がまとめられるようにする。 ・いつから文化財が残っているのか、なぜできたのか等、さらに深められるようにする。	・博物館職員による「地域の文化財などの特色」についての講話(ゲストティーチャー)

	・さらに「歴史」、「魅力」など項目ごとに細分化し整理する。 ・自分の調べたこととの関連があれば、付けたしたりさらに調べたりできるようにする。 ○ゲストティーチャーを招き、地域の文化財についての理解を深める。 ・「さらに調べたいこと」や「疑問点」を明らかにしていく。(2) ○まとめに・表現の発表に向けて、発表計画を立てる。(1) ・発表までの流れの見通しを持つ。		
	まとめ 神頼みをして生きるはりあいになしたり、生活を豊かにしたりするために受け継がれてきた。		
まとめ 表現 (7)	○文化財の歴史、特色、魅力等の情報を盛り込んだ「文化財マップ」を作成する。(4) ・作成 ・発表練習 ○作成した「文化財マップ」をポスターセッションし、見学者に発表する。(2) ○地域で大切に守られている文化財と、自分との関わりを振り返る。(1)	・マップを使いながら、発表できるように報告書（原稿）作りも並行して行う。 ・クラスを7つのグループに分けて報告書を作成する。 ・この地域のことを知らない人等視聴者にどうやって伝えるとわかりやすいかを考えさせる。 ・自分の住んでいる地域への愛着が感じられ、今後の生活に生かしていこうという気持ちを持つことができるように考えさせる。	・博物館への展示 ・博物館での発表

5 実践するにあたって

- 行事等があることを鑑み、実施時期は要検討。また、前年度から学年の時間割を揃えたり、地域の人材バンクを活用したりする等、総合的な学習の時間主任を中心に計画を綿密に組む必要がある。
- 移動距離が長い学校に関しては、フィールドワークの後そのまま下校できるような体制を整えておくが良い。

地域素材として「舟運」を取り上げた事例

小学校第5学年 総合的な学習の時間 指導計画（例）

1 単元名 「舟運」って何だろう？ （25時間～）

2 取り上げる地域素材

【建物】○元舟問屋（伊勢安） ○旭橋
 【史跡】○仙波河岸公園 ○新河岸川の流れ
 【博物館資料】○牛子河岸模型 ○高瀬舟模型 ○河岸一覧 ○舟運による輸送品

3 主な活動

- （1）「舟運」の概要を調べ、単元を通した課題を設定し、学習計画を立てる。
- （2）学習計画をもとに、文献資料やフィールドワーク、聞き取り調査等を通して調べる。
- （3）調べてわかったことを整理し、舟運と川越の発展との関連について考える。
- （4）調べてわかったことを資料にまとめ、発表し、これからの地域との関わりについて考える。

4 単元計画

（1）目標

江戸初期から昭和初期まで運用されていた「舟運」について、文献資料で調べたり、フィールドワークにより現在も残る関係資料を調べたり、関係者に取材したりする活動を通して、舟運が川越の発展に大きく関わっていたことに気づき、先人が築き上げてきた文化や伝統のよさを受け継いで、地域の一員としての誇りを持ち、よりよい生き方をしようとする。

（2）指導計画

過 程 時 間	学習活動	指導上の留意点	博物館の活用
課 題 設 定 ⑥	○川越市で行われていた「舟運」について知る。(1) ○新河岸川周辺をフィールドワークし、舟運で利用されていた場所を見学する。(2) ○「舟運」が川越に与えた影響について予想する。(1) ○単元を通した課題を設定する。(1)	・社会の学習と関連をはかる。(3年「暮らしの移り変わり」) ・児童の課題により、3～5人のグループをつくる。 ・自分の課題について、取り組みの理由をはっきり言えるようにさせる。	・博物館の方に来校してもらい、舟運について知る。
川越の舟運は、川越にどのような影響を与え、人々の生活はどのように変わったのだろうか。			
	○調べ、追求していきたいテ	・舟運の航路を調べる。	

	ーマでグループを編成し、学習計画を立てる。(1) (グループ編成例) A 航路 B 河岸場 C 運搬物 D 歴史 E 船	・河岸場について調べる。 ・運ばれていたものを調べる。 ・舟運の歴史について調べる。 ・舟運に使われていた船について調べる。	
	(学習計画例) A 航路グループ 1 調べることを「河岸場の数」「河岸場の名前」「航路の形」のように大きく分ける。 2 それぞれ何で調べるか決定する。 「河岸場の数」→資料 「河岸場の名前」→資料 「航路の形」→当時の地図、博物館見学		
情報収集⑩～⑭	○調べ追求していききたいテーマについて、学習計画に沿って調べる。(10～14)		
	A 航路グループ ・河岸場の数 ・河岸場の名前 ・航路の形 〈博物館利用〉 当時の地図、写真、資料等、博物館の見学	B 河岸場グループ ・建物の様子 ・人々の様子 ・地形 〈博物館利用〉 当時の地図、元舟問屋（伊勢安）などの紹介、資料等	C 運搬物グループ ・食べ物 ・食べ物以外 ・上りと下りの違い 〈博物館利用〉 写真、資料等 博物館の見学
	D 歴史グループ ・誕生のきっかけ ・他との関わり ・途絶えてしまった理由 〈博物館利用〉 写真、資料等	E 船グループ ・大きさ ・作り、素材 ・金額 〈博物館利用〉 写真、資料等 博物館の見学	
	○文献資料による調査 ・新河岸川についての文献 ・川越の舟運の歴史についての文献 - など ○フィールドワークによる実地調査 ・旭橋周辺（新河岸川河岸場跡） ・元舟問屋（伊勢安） - など ○聞き取りによる調査 ・元舟問屋（伊勢安） ・地元の人 ・博物館の方 - など ○博物館見学による調査 ○インターネットによる調査		

	(留意点) ・事前に連絡や下見が必要なものは、教師が連絡を取る。 ・インターネットの検索の補助をする。 ・情報を選択し、自分の課題に必要なものをノートにまとめていくようにさせる。 ・調べて分からないことは、専門家に聞く。	
整理分析 ④	○テーマグループ内で舟運について調べたことを「わかったこと」「さらに調べたいこと」に分類する。(2) ○テーマグループ内で「舟運」と「川越の発展」との関わりについて考える。(1) ○まとめに向けて、発表計画を立てる。(1)	・情報を選択し、自分の課題に必要なものをノートにまとめていくようにさせる。 ・まとめ方を工夫し、分かりやすい発表の仕方を考えさせる。 ・できるだけ自分の言葉で表現するようにさせる。
	(発表計画例) A 航路グループ 1 発表資料の形式を決定する。 2 見出しを決め、書くことと場所を大まかに決める。 3 分担する。 4 発表資料を作成する。	
まとめ表現 ⑤	○発表資料を作成する。(2) ・ポスター ・新聞 ・スライド ○テーマごとに発表し、全体で情報を共有する。(1) ○全体で「舟運」と「川越の発展」との関わりについて考え、まとめる。(1) ○地域で大切に守られている文化財と、自分との関わりを考える。(1)	・感想や良かった点について、意見交流をするようにさせる。 ・単元全体を振り返り、自分の取り組みの感想をまとめ、次の取り組みに生かせるようにさせる。 ・地域で大切に守られている舟運と、自分との関わりを考える。

5 実践するにあたって

- 今の時代に確認できない当時のものを、博物館などから借りられるように連絡をすると良い。
- 導入部分で、博物館の方に出前授業を行ってもらうことになるので、事前に連絡をすることが必要である。
- 高階の地区をこえて、フィールドワークなどに行くと舟運についてさらに知ることができるため、今後検討する価値があると考えられる。

〇〇中学校 総合的な学習の時間 指導計画（例）

1 単元名 川越の魅力を再発見し、身近な人たちに発信しよう（12時間～）

2 目指す生徒像

郷土である川越に誇りと愛着を持ち、その魅力を継承し、自らの生活や行動に生かせる生徒を目指す。

川越の魅力を、興味・関心のある分野をもとに主体的に探究し、まとめた情報を効果的に発信できる生徒を目指す。

3 単元の目標

川越の魅力について調べ、発信する活動を通して、郷土川越の魅力や課題に気づき、将来どのように関わり生活していくのが良いかを考え、自らの生活や行動に生かそうとすることができるようにする。

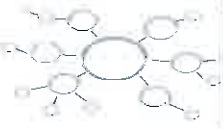
4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①川越の歴史や文化、伝統行事、特産品などの、地域の特徴について理解している。	①川越の魅力を探り、発信するための課題を設定し、解決に向けて見通しを持って計画している。	①友達との協働的な活動を通して、川越の魅力や課題を調べたりまとめたりしようとしている。
②収集した情報や自らの意見を適切に文章や図表などを用いてまとめている。	②川越の魅力に関する情報を、多様な方法で収集し、整理・分析している。	②川越の魅力や課題について、調べたことを生かし川越の発展に参画しようとしている。
	③川越の魅力や自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、発信している。	

5 単元の指導計画・評価計画

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程時間	○学習活動・生徒の思考	・指導上の留意点 ☆評価【観点】（評価方法） ◇各教科との関連
課題（1）	オリエンテーション ○総合的な学習の時間の目的について理解する。	・総合は、主体的に行う、探究的な活動であることを理解させる。 ・今後の学習についての見通しとゴールのイメージを持たせる。「誰に」（相手意識）、「何のために」（目的意識） ・課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現という学習の過程を想起させる。

	○川越の魅力イメージマップを作成する。 ・川越の魅力とは。   ○教師によるミニ川越プレゼン ※1人3分程度 ①歴史・人物 ②祭り ③建築 ④名産品 ⑤SDGs など	・川越についてどれだけ知識をもっているのかを視覚的に自覚させる。 ・イメージマップ以外の方法として、メンチメーカーアプリを活用し、各生徒に川越の魅力を入力させ、どのような視点があるのかに気づかせてもよい。 ・まず教師がテーマや発信方法の例を様々示す。 ・プレゼンごとに感想を書かせる。 ・自分がどのテーマや発信方法に興味があるのかを考えさせる。 ・川越の魅力にも様々な分野があることに気づかせる。 ☆【知・技】①（発言・ワークシート）
課題情報 (1)	詳しく調べたい課題を決めよう ○探究のテーマを決める。 ・どの分野からの魅力を調べるか。	・自分が興味関心のある分野を選び、詳しく調べてみたい課題を決めさせる。 ・インターネットで検索しながら様々な分野があることに気づかせる。教師からも提示する。 ・アンケートフォームを作成し、入力させる。 ☆【思・表・判】①（発言・ワークシート） ※探究できる（疑問が湧き出てくる）豊富な素材例 ○蔵造りの町並み（なぜ川越は、小江戸と呼ばれるのか。） ・なぜ川越には蔵造りのお店がたくさんあるのか。 ・いつ頃建てられたのか。・どんな材料が使われているのか。 ・なぜ川越の蔵造りは黒いのか。・蔵造りとはどんな建物をいうのか。 ・どのように蔵造りの建物はつくられているのか。 ○近代建築（西洋的な建築、看板建築） ・いつ頃建てられたのか。・どんな特徴があるのか。 ・どんな材料が使われているのか。 ・看板建築とは何か。・蔵造りの建物との違いは何か。 ○時の鐘 ・いつ頃建てられたのか。・誰が建てたのか。・何のために建てたのか。 ・高さはどれくらいか。・今でも鐘は鳴るのか。 ○川越城本丸御殿 ・いつ頃建てられたのか。・誰が建てたのか。・何のために建てたのか。 ・天守閣はあったのか。・どんな殿様が住んでいたのか。 ・今も城の跡は残っているのか。 ○喜多院・仙波東照宮 ・なぜ江戸城の建物があるのか。・なぜどろぼう橋というのか。 ・なぜ五百羅漢は作られたのか。 ・なぜ川越に東照宮があるのか。・天海大僧正とはどんな人物か。 ○新河岸川舟運 ・舟運とは何か。・どんな舟を使っていたのか。・いつから始まったのか。 ・どんなものが運ばれていたのか。・なぜ新河岸川を使ったのか。

	○菓子屋横丁 ・いつからお菓子作りが始まったのか。・なぜお菓子屋さんが集まっているのか。 ・飴職人さんは、どのように飴を作っているのか。 ○氷川神社 ・どんな神様が祀られているのか。・なぜ風鈴や風車が飾られているのか。 ・大鳥居はどのくらいの高さがあるのか。 ○川越まつり ・いつから始まったのか。・どんな山車があるのか。 ・山車にはどんな人形が乗っているのか。・ひっかわせとは何か。 ○河越氏と河越館 ・河越氏とはどんな武士だったのか。・河越館はどこにあるのか。 ○さつまいも ・なぜさつまいもが特産品なのか。 ・川越で人気のさつまいもを使った食べ物は何があるのか。 ○うなぎ ・なぜうなぎ屋さんが多いのか。 ○川越のSDGs ・川越でSDGsに関連した取り組みが行われているのか。 ・どのような取り組みをしているのか。・どのような課題があるのか。 ○町づくり ・どんな人たちが関わってきたのか？ ・それぞれどんな工夫がされているのか？ ※上記の素材は、互いにに関わり合い、つながっているものもある。 (例) 舟運と喜多院の建物、さつまいもなど
情報整理 (1)	川越の魅力を発信する方法を考えよう ○発信方法を考える。 ①観光地のHPやポスターを提示し、分かったこと・気づいたこと・思ったことを出し合う。  ②観光地のCM動画を視聴し、分かったこと・気づいたこと・思ったことを出し合う。  ・共通テーマは「川越の魅力を再発見と発信」であることを再度確認する。 ・思考ツールを活用させる。 例) イメージマップ、ジャムボード ・川越だけでなく他の観光地（北海道や京都など）のCMも視聴する。 例) 「そうだ、京都へ行こう」

	○その他の発信方法や気をつけるべきことを考え、共有する。	・新聞やSNSなど、それぞれの発信方法のメリット、デメリットもジャムボードに書き込ませていく。 ・情報モラルの観点からも考えさせる。 ☆【思・判・表】 ②（発言・ワークシート）						
情報整理 (1)	課題解決に向けて計画を立てよう ○課題別のグループごとに話し合い、計画を立てる。 ・誰が何を調べるか。 ・どのような方法で調べるか。 ・調べたことをどのように発信するのか。 ・それをどのようにプレゼンするのか。など	・情報収集の方法について例示する。 ・ゲストティーチャーを招いての講演会、現地調査としての博物館見学、川越のフィールドワークなども選択肢の一つとして考えられる。 ・関連機関への事前連絡は、1か月前までに行う。 <table><tr><td>川越市立博物館</td><td>2 2 2－5 3 9 9</td></tr><tr><td>観光課</td><td>2 2 4－5 9 4 0</td></tr><tr><td>文化財保護課</td><td>2 2 4－6 0 9 7</td></tr></table> ・発信方法は、グーグルスライド、新聞、ポスター、ガイドブック、CM動画など様々あってよい。 ・時間内で仕上がるよう見通しをもって作成させる。 ☆【思・判・表】①（行動・ワークシート） ☆【態】②（ワークシート）	川越市立博物館	2 2 2－5 3 9 9	観光課	2 2 4－5 9 4 0	文化財保護課	2 2 4－6 0 9 7
川越市立博物館	2 2 2－5 3 9 9							
観光課	2 2 4－5 9 4 0							
文化財保護課	2 2 4－6 0 9 7							
情報整理 表現 (5)	情報を集め、意見をまとめよう ○情報を集め、まとめる。 ○プレゼンテーションの準備をする。	・川越の魅力は何か、どうやってその魅力を発信するのかの2点をプレゼンさせる。 ・グーグルスライドを用いて、プレゼンができるようにする。 ☆【知・技】②（発表・ワークシート） ☆【思・判・表】②（発表・ワークシート） ☆【態】①（ワークシート） ◇社会						
表現 (2)	川越の魅力を発信しよう ○発表会を行う。	・地元の方々や小学生を招き、発表会を行う。 ・聞き取りメモを取らせ、発表内容やその方法について互いに評価させる。 ☆【思・判・表】③（発表・スライド）						
表現 (1)	○単元全体を振り返り、自分の考えをまとめる。 ①川越の魅力イメージマップを作成する。 ②川越の魅力を継承する上で、自分自身がこれから取り組むことを明らかにする。	・川越についての知識や、魅力をどれだけ知ることができたかを視覚的に自覚させる。 ・メンチメーターアプリに入力させてもよい。 ・単元全体の活動を通しての、自分自身の変化や成長、課題に気づかせ、これから取り組むことを明らかにさせる。 ☆【思・判・表】③（発表・ワークシート） ☆【態】②（ワークシート）						

	○お礼状を作成する。※必要に応じて ・学習を通してお世話になった方々へのお礼状を書かせる。 ・手紙の書き方テキストを活用する。 ◇国語	
--	---	---

※参考資料

- 1 埼玉県中学校教育課程指導・評価資料
- 2 各学校の年間指導計画「総合」

中学校第3学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「15年後、川越を住みたい街にするために」

2 指導計画（12時間）

- （1）課題設定：調べ学習についてのガイダンス、テーマ決め・・・・・・・・・・1時間（本時）
- （2）情報収集：プレゼンテーション資料の作り方・・・・・・・・・・2時間
- （3）情報収集：テーマから課題と解決方法を考える・・・・・・・・・・1時間
- （4）整理分析：個人ごとのスライド作成・・・・・・・・・・5時間
- （5）表 現：個人発表・・・・・・・・・・2時間
- （6）ま と め：振り返り・・・・・・・・・・1時間

3 実際の指導（1／12時間）

（1）目標

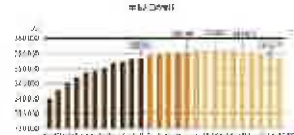
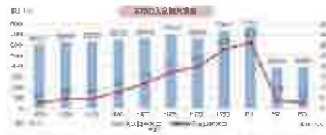
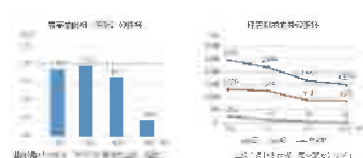
＜思・判・表＞自分の住んできた川越の未来の姿を過去のデータをもとに考え予想することで、現在の川越における状況を知り、今後の川越に対して思考を高める。

（2）本時に活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
・クロームブック ・川越市立博物館の資料	・市の観光ガイドのサイトを活用する。 ・昔の様子やデータを知る。	・川越について興味をもち、改めて自分の選んだテーマについて調べる見通しをたてる。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価【観点】 ◎資料活用のポイント	資料名	時間 (分)
1 職員紹介、今回のガイダンスのねらいについて	○次回の調べ学習に向けて、テーマごとに視点を持って話を聞くようにする。その際に、必要なことはメモを取りながら聞くように指導する。全学級で一斉に行うために別室からのオンラインで行う。		5
			

2 15年後の川越をどうしていきたいかの視点を考える。	□川越の「暮らし」「観光」「風景」「農業」「お祭り」「人口」「交通」「建物」「名産品」「他都市との繋がり」などテーマを例示しながら説明する。	・過去のデータ ・川越市内の過去の画像など	40
観光都市・川越  川越市の人口の推移 	川越市の観光客数の推移  農業産出額・耕地面積の推移  川越のむかし・いま 川越中心部の街並み保存と変化 		5
3 次回からのスライド作成への見通しをもつ 	☆川越の歴史や課題を知り、15年後の理想の川越について考えている。【思・判・表】 ○どんなことに興味を持ったか共有する。次回からのテーマ決めへ声がけをする。 		

(4) 成果

- この時間の前に、プレゼンテーションの仕方やテーマの選び方を学習した。数字や具体例を使って資料を作り、見やすいスライドを作成し、出典場所を明記するなどの注意点を意識してスライド作りに取り組んでいた。
- 1年生で地域学習、2年生で川越での校外学習を行い、川越に関する知識は深まっている。そのまゝとめとして博物館の方から様々な視点から川越の現状を知ること、より良い未来のことを改めて考える橋掛けとなっていた。

中学校 1 学年 総合的な学習の時間 指導カード

1. 単元名 「環境問題について考えよう！」（林間学校事前学習）

2. 指導計画（13 時間扱い）

- （1）課題設定：林間学校オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・1 時間
- （2）情報収集：環境問題について知る・・・・・・・・・・・・・1 時間
- （3）情報収集：郷土川越の環境調べ・・・・・・・・・・・・・1 時間（本時）
- （4）整理分析：川越の環境について新聞にまとめる・・・・・・・・・・・・・1 時間
- （5）表 現：クラス発表・・・・・・・・・・・・・1 時間
- （6）課 題：林間学校への取り組み・・・・・・・・・・・・・7 時間
- （7）表 現：富士山周辺の良さを挙げ、川越と比較する・・・・・・・・・・・・・1 時間

3. 実際の指導（3 / 13 時間）

（1）目標

〈思・判・表〉 環境問題に興味を持つ。

〈知・技〉 郷土川越の良さや環境の変化を知り、自分にできることを考えている。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名(図録ページ)	活用の仕方	ねらい
	・クロムブック ・図書資料 ・博物館の資料	・川越の環境について検索をする。 ・環境についての本から川越に結び付くものを探す。	・環境問題から郷土川越の良さを知り、今後の活動の意欲を高める。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ☆評価【観点】 ◎資料活用のポイント	資料名	時間分
1 前時の環境問題について振り返る。	○環境問題を振り返り、川越の環境と比較できるようにする。(水質、道路、建造物、地形など)	・環境学習ワークシート	4
2 本時のめあてを確認する。	前時の環境問題をふまえ、郷土川越の環境について調べよう		1
	☆見通しをもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。 【思・判・表】		

2 郷土川越の環境の良さと課題を調べていく。	○クロムブックや図書資料、博物館の資料を使いワークシートに記入する。 ◎多くの資料をもとに、より深く川越の環境について考えさせる。	・クロムブック ・新聞に情報をまとめるためのワークシート ・図書資料 ・博物館資料	1 5
3 川越の環境についてどんなものが出たか、グループで話し合う。	○グループになり、川越にはどんな良さや課題があるかクロムブックを使って話し合わせる。 ☆情報収集したことを共有してまとめ、自分の整理分析に役立てようとしている。 【知・技】	ジャムボード 	2 5
4 調べや話し合いで出たものをもとに、発表に向けて新聞にまとめていく。	○本時と次時で新聞をまとめられるよう促す。		
5 次時の予告を行う。	○クラス発表に向けて、新聞をまとめられるよう意識を向けさせる。		5

4. 成果

- 川越の環境の良さ、課題を知ることで、自分にできることは何かを考えさせることができた。
- 事前に川越について調べることで事後の山梨の富士山周辺と川越の比較につなげることができた。

中学校第3学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「未来につなげよう！魅力あふれる『ふるさと川越』」

2 指導計画（18時間扱い）

- （1）課題設定：詳しく調べたい課題を決めよう・・・・・・・・・・1時間
- （2）情報収集：課題解決に向けて情報を集めよう・・・・・・・・・・2時間
- （3）整理分析：情報を整理して比較しよう・・・・・・・・・・3時間
- （4）表 現：比較してまとめたものを伝え合おう・・・・・・・・・・2時間
- （5）課題設定：追究したい課題を決めよう・・・・・・・・・・1時間
- （6）整理分析：情報を集め、意見をまとめよう・・・・・・・・・・6時間
- （7）表 現：川越の魅力を継承する方策を伝え合おう・・・・・・・・・・2時間（本時）
- （8）ま と め：これまでの探究を振り返ろう・・・・・・・・・・1時間

3 実際の指導（16・17／18）

（1）目標

〈思・判・態〉「ふるさと川越」の魅力を再発見し、それらを継承していくことについて考えながら、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

（2）展開

○学習活動 ・生徒の思考	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価【観点】	時間 (分)
1 本時のめあてを確認する。		
「ふるさと川越」の魅力を継承する方策を伝え合おう。		
2 発表会の流れや評価の観点について確認する。	○プレゼンテーションを行う際は、提示するスライドや作品が、聴衆に見えるよう意識させる。 ○評価については、プレゼンテーションのわかりやすさだけでなく、アイディアのおもしろさにも注目するように伝える。 ○プレゼンテーションの内容について、良い点と課題点をそれぞれ考えながら、参観するよう促す。 □博物館職員が自己紹介をしたり、プレゼンテーションに期待することなどを話したりすることで、生徒の意欲を高めさせる。	5



○学習活動 ・ 生徒の思考	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価【観点】	時間 (分)
3 「ふるさと川越」の魅力を継承していくために自分達にできることを、プレゼンテーションし合う。 ※次ページの(1)～(3)を繰り返し行う。 (1) プレゼンテーションを見る(行う)。 (2) プレゼンテーションに対する自分なりの評価を、ワークシートに記入する。 (プレゼンテーションを行った場合は、自己評価を行い、反省を書く。) (3) 博物館職員の講評を聞く。 	○司会進行を行う。必要に応じて、ファシリテーターの役割も担う。 ○プレゼンテーションがスムーズにできるよう、機器の接続等を確認し、適宜補助する。    □生徒のプレゼンテーションに対して、博物館職員が良い点を挙げつつ、多様な視点から予想される課題点について伝える。 ☆再発見した「ふるさと川越」の魅力を継承していくことについて考えながら、自らの生活や行動に生かそうとしている。(スライド・作成物)【思・判・表】	8 5
4 魅力的だと思うプレゼンテーションに投票し、ベストアイデア賞を決める。	○Googleフォームでアンケートを行い、即時開票できるようにする。投票数が多いグループを発表する。	5
5 博物館職員による発表会全体を通しての講評を聞く。	□生徒のプレゼンテーションを振り返りつつ、現在の川越が成立するまでの過程や川越市として発信している魅力に触れる。	5

4 「成果」について

○川越の魅力やそれらをつないでいく方策について、生徒同士でプレゼンテーションをし合ったり、博物館職員の講評を聞いたりすることで、自分たちの故郷である川越への興味・関心を高めることができた。

〇〇中学校 総合的な学習の時間 指導計画（例）

1 単元名「未来につなげよう！魅力あふれる『ふるさと川越』」（17時間～）

2 単元で目指す生徒像

郷土である川越に誇りと愛着をもち、その魅力を継承して、自らの生活や行動に生かせる生徒の育成を目指す。

3 単元の目標

郷土である川越と京都・奈良の歴史や文化財、伝統行事、特産品などの比較を通して、川越の魅力を再発見するとともにそれらを継承していくことについて考え、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①川越の歴史や文化財、伝統行事、特産品などの、地域の特徴について理解している。	①川越や京都・奈良の歴史や文化財、伝統行事、特産品などを想起する中で、それらの共通点や相違点、魅力について考えている。	①既習の学習事項を想起しながら、課題に対して調べたり、まとめたりしている。
②京都・奈良の歴史や文化財、伝統行事、特産品などの、地域の特徴について理解している。	②情報を収集する上で、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。	②友達との協働的な活動を通して、川越の歴史や文化財、伝統行事、特産品などの継承に取り組もうとしている。
③収集した情報や自らの意見を適切に文章や図などを用いてまとめている。	③川越の魅力を継承していくために、自らにできることを考えている。	③川越の歴史や文化財、伝統行事、特産品などについて調べたことを生かし、川越の発展に参画しようとしている。
	④収集した情報の分析結果や自分の意見を生かし、わかりやすく工夫して、プレゼンテーションをしている。	

5 単元の指導計画・評価計画

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程時間	○学習活動 ・生徒の思考	・指導上の留意点 ☆評価【観点】（評価方法） ◇各教科との関連
整理課題（1）	オリエンテーション ○川越と京都・奈良の共通点や相違点、それぞれの魅力について想起したり、話し合ったりする。 ・歴史的建造物が多くある。（共） ・有名な銘菓がある。（共） ・歴史的建造物に関して、京都・奈良は神社仏閣が、川越は商業的な蔵造りの町並みを中心である。（違）	・オリエンテーションでは、今後の学習について見通しとゴール（川越の魅力を再発見し、それを継承するために自分達にできることを提言する）のイメージを持たせる。 ・イメージマップ使って、川越と京都・奈良の特色を想起させ、共通点や相違点、それぞれの魅力について整理させる。 ・学校や生徒の実態に応じて、旅行会社等に協力を依頼し、川越と京都・奈良の魅力について、観光の専門家から話をしてもらう。

整理課題 (1)	詳しく調べたい課題を決めよう ○個人課題(何について比較してまとめるか)を決める。	・オリエンテーションを経て考えたこと、修学旅行や校外学習などで知ったことを想起させる。 ・二者の比較を踏まえた課題を設定させる。 ○【思・判・表】①(発言・ワークシート) ※探究できる(疑問が湧き出てくる)豊富な素材(例) ○歴史(なぜ川越は、小江戸と呼ばれているのだろうか。) ・なぜ、京都・奈良や川越は観光地になったのだろうか? ・それぞれの地の繁栄を支えた人物はどんな人だろうか? ○銘菓・特産物(例: さつまいも菓子とお茶菓子) ・それぞれの銘菓には、どのような特徴があるだろうか? ・それぞれの特産物は、どのようにして誕生したのだろうか? ・それぞれの特産物を用いた銘菓には、どのようなものがあるだろうか? ○祭り(例: 川越祭りと祇園祭り) ・それぞれの祭りには、どのような特徴があるだろうか? ・なぜ、それぞれの祭りは行われるようになったのだろうか? ○景観・文化財 ・京都・奈良と川越の景観にはどのような違いがあるだろうか? ・魅力ある景観を実現するために、どのような工夫をしているのだろうか? ・京都・奈良と川越で、同じ時代に建てられた建築物に違いはあるだろうか? ○観光 ・観光地としての魅力を、それぞれどのようにPRしているだろうか? ・障害のある方々に対して、それぞれどのような工夫をしているだろうか? ・外国人観光客が感じるそれぞれの魅力とは何だろうか? ○町づくり ・どんな人たちが関わってきたのだろうか? ・どんな工夫がされているだろうか? ○川越のSDGs ・川越でSDGsに関連した取り組みが行われているのか。 ・どのような取り組みをしているのか。 ・どのような課題があるのか。
情報 (2)	課題解決に向けて情報を集めよう ○川越と京都・奈良(歴史、文化財、伝統行事、特産物など)について、図書資料やインターネットで調べる。 ※調べる中で生まれた新たな疑問についても、更に詳しく調べる。	・オリエンテーションや修学旅行等で得た情報を補足したり、新たに必要となった情報を得たりするよう促す。 ・新たな疑問に対する探究活動も促すが、自身の課題からずれたり、発表までの見通しをもてなくなったりしないよう注意する。 ☆【思・判・表】②(行動) ☆【態】①(行動・ワークシート) ◇社会

整理 表現 (3)	情報を整理して比較しよう ○集めた情報を整理する。 ○川越と京都・奈良（歴史、文化財、伝統行事、特産物など）について比較しながら、新聞形式でまとめる。	・比較するテーマを明確にした上で、新聞を作成させるようにする。 ☆【知・技】 ③（新聞） ☆【態】 ①（行動・ワークシート）
表現 (2)	比較してまとめたものを伝え合おう ○川越と京都・奈良に関する比較をまとめた新聞を発表し合う。 ・川越の蔵造りの町並みは素敵だ。 ・特産品のさつまいもを使った銘菓をもっと知りたい。 ・川越の歴史を調べたら面白そうだ。 ・地元の魅力はいろんな人に支えられて残されてきたのだろう。	・新聞は事前にスキャンしておき、電子黒板等に画像として映し出しながら発表する。 ・新聞を棒読みするのではなく、要点を説明し、わかりやすく発表できるようにする。 ・次時の活動を予告しておき、発表を聞く際には、川越のどんな魅力を継承していきたいかという視点をもつよう促す。 ☆【知・技】 ①・②（新聞・発言） ◇同語
整理 課題 (1)	追究したい課題を決めよう ○川越と京都・奈良の比較を通して考えた川越の魅力について確認する。 ○これまでの学習をもとに、「ふるさと川越」の魅力を継承していくために自分達に何ができるかを考える。 ・PRして更に魅力を広める。 ・地元に住む自分達が魅力により詳しくなる。 ・福祉の視点から魅力を更に磨く。 ○グループ課題(どの魅力をどのような方法で継承していくか)を決定する。	・比較を通して再発見した川越の魅力をよりよいものにして次世代につないでいく（継承する）ためには何が必要か考えさせる。 ・特に継承したいと感じた川越の魅力を基準にグループを分け、具体的な課題を設定させるようにする。 ・より前向きな意見となるよう促す。 ☆【態】 ②・③（発言・ワークシート）
※探究できる(疑問が湧き出てくる)豊富な素材(例)については、前ページ参照		
情報 整理 表現 (6)	情報を集め、意見をまとめよう ○「ふるさと川越」の魅力を継承していくために自分達にできること(具体的な方策)を考える。 ※調べたり、考えたりする中で生まれた新たな疑問についても、更に詳しく調べる。 ○収集した情報や考えた内容をスライドにまとめたり、実物を作成したりするなどして、プレゼンテーションの準備をする。	・各自のアイディアや収集した情報を、グループのジャムボードを利用し、付箋などで整理させる。 ・スライドを用いて、プレゼンテーションができるようにする。 ・共同でスライドを作成することで、グループ内で情報や考えを共有しながら活動できるようにする。 ・発表内容に関しては、スライド以外にも、実演を行ったり、考案した手作りの物を見せたりするなど、多様な発表方法があることを例示する。 <プレゼンテーションの方法例> ・スライド ・実演 ・ペープサート ・紙芝居 ・実物展示 ・パネル

		・情報収集に関しては、インターネットや図書資料だけでなく、川越市立博物館や観光課、文化財保護課などの関係機関と連携することも考えられる。 ※事前連絡は、1 か月前までには行う。 手紙やFAXなど、書面の活用も検討する。 川越市立博物館 222-5399 観 光 課 224-5940 文化財保護課 224-6097 ・物作りなどは、学校や生徒の実態に応じて行う。 ☆【思・判・表】 ③（発言・パワーポイント） ◇技術・家庭科
表現 (2)	川越の魅力を継承する方策を伝え合おう ○「ふるさと川越」の魅力を継承していくために自分達にできることをプレゼンテーションし合う。 ○学習の振り返りをする。	・スライドを使って発表する際、スライドを棒読みするのではなく、要点を説明し、わかりやすく発表できるようにする。 ・発表を聞く生徒には質問を促すなど、双方向のやり取りができるようにする。 ・学習したことを今後の自分の生活や行動にどのように生かしていきたいかを考えるよう促す。 ☆【思・判・表】 ④（発言・スライド・作成物） ☆【態】 ③（ワークシート） ◇国語

※参考資料

1. 埼玉県中学校教育課程指導・評価資料P280～301
2. 各学校の年間指導計画「総合」 （desknet's Neo の文書管理）
 文書管理→教育委員会部局→学校教育部→教育指導課→（学校提出用）年間指導計画
3. 川越市市勢要覧2020

〇〇中学校 総合的な学習の時間 指導計画（例）

1 単元名 川越の魅力を再発見し、観光都市 KAWAGOE の未来を考えよう。（15 時間～）

2 目指す生徒像

郷土である川越に誇りと愛着を持ち、その魅力を継承し、自らの生活や行動に生かせる生徒。

川越の魅力や未来について、興味・関心のある分野をもとに主体的に探究し、まとめた情報を効果的に発信できる生徒。

3 単元の日標

川越市について調べたり、横浜市との比較をしたりする活動を通して、地元川越の魅力や課題に気づき、将来どのように関わり生活していくのが良いかを考え、自らの生活や行動に生かそうとすることができる。

4 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①川越の歴史や文化、伝統行事、特産品などの、地域の特徴について理解している。	①川越の魅力を探り、発信するための課題を設定し、解決に向けて見通しを持って計画している。	①友達との協働的な活動を通して、川越の魅力や課題を調べたりまとめたりしようとしている。
②収集した情報や自らの意見を適切に文章や図表などを用いてまとめている。	②川越の魅力に関する情報を、多様な方法で収集し、整理・分類している。 ③川越の魅力や自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、発信している。	②川越の魅力や課題について、調べたことを生かし川越の発展に参画しようとしている。

5 単元の指導計画・評価計画

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程 時間	○学習活動・生徒の思考	・指導上の留意点 ☆評価【観点】（評価方法） ◇各教科との関連
----------	-------------	---------------------------------

課題 (1)	○総合的な学習の時間の目的や、今後の学習の流れについて理解する。 (オリエンテーション) ①観光都市 KAWAGOE の未来を考えるために、川越市ではどのような取り組みが行われているか現状を調査する。 ②SDG s 未来都市である横浜市との比較を通して、川越市には現在どのような課題があるかを考え発信する。	・総合は、主体的に行う探究的な活動であることを理解させる。 ・今後の学習についての見通しとゴールのイメージを持たせる。「誰に」(相手意識)、「何のために」(目的意識) ・課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・分析という学習の過程を想起させる。						
	○川越のイメージマップを作成する。 ・川越の魅力とは？ ・川越の課題とは？ ○探究のテーマを考える。 ① 子ども・子育て ② 福祉・保健・医療 ③ 教育・文化・スポーツ ④ 都市基盤・生活基盤 ⑤ 産業・観光 ⑥ 環境	・川越についてどれだけ知識をもっているのかを視覚的に自覚させる。 ・イメージマップ以外の方法として、メンチメーターアプリを活用し、各生徒に川越の魅力を入力させ、どのような視点があるのかに気づかせてもよい。 ・まず教師が6つのテーマを紹介し、自分がどのテーマに興味関心があるのかを考えさせる。 ・川越市の将来都市像「人がつながり、魅力があふれ、だれもが住み続けたいまち川越(第4次川越市総合計画)」の1～6の中からテーマを決める。 ・川越市を SDG s の視点から調査することを伝える。						
課題 (2)	○実地調査に向けて、班ごとに探究のテーマ等を決める。	・班のテーマとして、興味関心のある分野を選び、詳しく調べてみたい課題、関連のある施設・見学先を決めさせる。						
情報 (1)	① 班で選んだテーマ ② テーマ設定の理由 ③ テーマに関連する川越市の取り組み ④ テーマに関連する SDG s の目標 ⑤ テーマに関連する市内の施設・見学先	・クロームブックを用い、調べさせる。 ・調べた内容をワークシートに記入させる。もしくは、ドキュメントシートで共同編集させる。 ☆【思・判・表】①(行動・ワークシート) ☆【態】①(ワークシート)						
情報 (2)	○実地調査に向けて、各自調べ学習を進め、調べたことをまとめる。	・関連機関への事前連絡は、1か月前までに行う。						
整理 (1)		<table><tr><td>川越市立博物館</td><td>2 2 2 - 5 3 9 9</td></tr><tr><td>観光課</td><td>2 2 4 - 5 9 4 0</td></tr><tr><td>文化財保護課</td><td>2 2 4 - 6 0 9 7</td></tr></table>	川越市立博物館	2 2 2 - 5 3 9 9	観光課	2 2 4 - 5 9 4 0	文化財保護課	2 2 4 - 6 0 9 7
川越市立博物館	2 2 2 - 5 3 9 9							
観光課	2 2 4 - 5 9 4 0							
文化財保護課	2 2 4 - 6 0 9 7							

情報 (3)	○実地調査をする。	・テーマに関連する市内の施設・観光場所等を1～3つ程度、班で見学する。 ・見学場所例…川越市立博物館・美術館、川越城本丸御殿、川越まつり会館、喜多院、氷川神社、熊野神社、蔵造りのまちなみ、大正ロマン夢通り など
整理 (2)	○実地調査のまとめをする。	・ワークシートに自分の考えを記入させる。 ・班ごとにまとめさせ、発表させる。クロームブックのスライドで共同編集させたものを発表させてもよい。
表現 (1)	① 見学して気づいたこと・学んだこと ② 実地調査をして見えてきた川越市の課題 ○まとめた内容をクラスで共有する。	☆【思・判・表】②③ (行動・ワークシート) ☆【態】① (ワークシート) ☆【知】①②
課題 (3)	○横浜市校外学習に向けて、調べ学習をする。	・班のテーマとして、興味関心のある分野を選び、詳しく調べてみたい課題、関連のある施設・見学先を決めさせる。 ・クロームブックを用い、調べさせる。 ・調べた内容をワークシートに記入させる。もしくは、ドキュメントシートで共同編集させる。
情報 (4)	① 班で選んだテーマ ② テーマに関連する横浜市の取り組み ③ 関連するSDGsの目標 ④ テーマに関連する市内の施設・見学先	☆【思・判・表】① (行動・ワークシート)
情報 (5)	○横浜市にて校外学習を行う。	・SDGsに関連する施設や、その取り組みを調査させる。
整理 (3)	○横浜校外学習のまとめをする。	・見学して気づいたこと・学んだこと、横浜市と比べて川越市の優れている点、川越市がさらに観光都市として発展する上で必要なことをワークシートに記入させる。 ・班ごとにまとめ、発表させる。クロームブックのスライドで共同編集したものを発表させてもよい。
表現 (2)	○まとめた内容をクラスで共有する。	☆【思・判・表】②③ (行動・ワークシート) ☆【態】① ☆【知】②
課題 (4)	○川越市と横浜市を比較し、未来都市KAWAGOEの理想像を考える。	・近未来の社会をより具体的にイメージしやすくするため、総務省の「ソサエティ5.0」等の動画を視聴させてもよい。

整理 (4)	○サステイナブル・ツーリズム（持続可能な観光）の実現のために、現在の川越市に必要な企画を考え、企画書とスライドを作成する。	・時間内で仕上がるよう見通しをもって作成させる。 ☆【思・判・表】①（行動・ワークシート） ☆【態】②（ワークシート）
表現 (3)	○発表会を行う。	・グーグルスライドを用いて、プレゼンができるようにする。 ・聞き取りメモを取らせ、発表内容やその方法について互いに評価させる。 ☆【思・判・表】②（発表・スライド） ☆【態】①（ワークシート） ◇社会
表現 (4)	○総合的な学習の時間を通して学んだこと・考えたことをまとめる。	・未来都市 KAWAGOE に自らがどう参画していくべきなのかを考えさせる。 ☆【態】②（ワークシート）

6 成果

○川越市と横浜市の比較を通して川越市の魅力や課題を考えることで、未来都市 KAWAGOE や、参画方法をより自分事として考えることができた。

○一人一台端末を活用することで、主体的・協働的に課題を探究し、まとめた情報を効果的に発信することができた。

※参考資料

- ・埼玉県中学校教育課程指導・評価資料
- ・各学校の年間指導計画「総合」